

あしたのための声明書

わたしたちは、忘れない、あきらめない、屈しない

自由と平和のための京大有志の会

わたしたちは、忘れない。

人びとの声に耳をふさぎ、まともに答弁もせず法案を通した首相の厚顔を。

戦争に行きたくないと叫ぶ若者を「利己的」と罵った議員の無知を。

強行採決も連休を過ぎれば忘れると言い放った官房長官の傲慢を。

わたしたちは、わすれない。

マスコミを懲らしめる、と恫喝した議員の思い上がり。

権力に媚び、おもねるだけの報道人と言論人の醜さを。

居眠りに耽る議員たちの弛緩を。

わたしたちは、忘れない。

声を上げた若者たちの美しさを。

街頭に立ったお年寄りたちの威厳を。

内部からの告発に踏み切った人びとの勇気を。

わたしたちは、忘れない。

戦争の体験者が学生のデモに加わっていた姿を。

路上で、職場で、田んぼで、プラカードを掲げた人びとの決意を。

聞き届けられない声を、それでも上げつづけてきた人びとの苦しく切ない歴史を。

きょうは、はじまりの日。

憲法を貶めた法律を葬り去る作業のはじまり。

賛成票を投じたツケを議員たちが苦々しく噛みしめる日々のはじまり。

人の生命を軽んじ、人の尊厳を踏みしめる独裁政治の終わりのはじまり。

自由と平和への願いをさらに深く、さらに広く共有するための、あらゆる試みのはじまり。

わたしたちは、忘れない、あきらめない、屈しない。

だれの子どももころさせない

参院選（7月10日投票）では、「戦争法」廃止を訴える候補者を必ず国会に送りましょう

「憲法9条の会・岩岡ニュース」第94号（昨年8月1日付け発行）に掲載した「わたしの『やめて』」（自由と平和のための京大有志の会）に続く2つめの「あしたのための声明書」（安保法成立後に作成）が広く共感をよんでいます。草稿を書いた藤原辰史さん（39）は、「いまの政権のやり方に怒り、あきれている市民の思いが沸々とたまっていると感じます」と話しています。（朝日新聞6月11日夕刊）

7月10日投票の参院選は必ず投票に行き、「戦争法」に反対した候補者を国会に送りましょう。

「（戦争法に）賛成票を投じたツケを議員たちが苦々しく噛みしめる日々のはじまり」にしましょう。

DVD「2016年2月トルコ・シリア国境」(西谷文和さん取材)上映とバザーを行います

毎年8月15日前後に行っている「憲法9条の会・岩岡」の平和のための催しを次のように行います。
 とき：8月19日(金) 13:30～15:30ごろ
 ところ：岩岡連絡所多目的ホール(大)

DVD「2016年2月トルコ・シリア国境」上映

14:00～(約15分)

バザー ご提供いただける品は、当日13時30分までにご持参いただき、適当と思われる値段の値札のところにご自分で置いて下さい。お買い求めいただいた品は、近くの箱にお金を入れてお持ち帰り下さい。売り上げは会の運営資金にさせていただきます。



6月24日、イギリスは国民投票でEU(欧州連合)からの離脱を選択しました。新聞は「難民めぐり亀裂」と報道しています。「難民の増加で自分たちの仕事が奪われる、納めた税金が難民のために使われる」ので「国の独立」を求めた、と。難民を拒絶する動きが広がっているようです。私たちは、イギリスの国民投票の結果についてあれこれ言うことはできませんが、このDVDは、とりわけつらく厳しい状況に置かれているシリア難民の今を伝えています。5周年記念行事(2012年3月)で講演をいただいた西谷文和さん(「イラクの子どもを救う会」)が、その後危険を冒して、シリア内戦を取材しています。短いものですが、ぜひごらん下さい。

お願い ご家庭で不要になった品をバザーにご提供下さい。よろしくお願ひします。

催し物のお知らせ

第12回ピースフェスタ明石

とき：8月3日(水)～7日(日)

ところ：明石市立勤労福祉会館

内容：

3日(水)～7日(日)

ギャラリー展示

6日(土) 市民による戦争体験談

7日(日) 歌、踊り、演奏など多彩な催し

松本ヒロ爆笑ライブ

フリーマーケット

らんらんランチなど

参加費：7日午後のメインイベントのみ1000円

自民党一筋投票先に悩む夏

省工ネ器具販売 寺西 康祐

(岐阜県 73)

私は有権者となって以来、自民党一筋に投票してきた。政権運営に安定感があり、一方で野党は頼りないと感じてきたからだ。だが今回の参院選は悩んでいる。

何年か前まで、自民が改憲を目指す動きは、それほど目立たず現実味もないと感じてきた。ところが今回の参院選は、改憲勢力が3分の2の議席を確保するかもしれないかの関ヶ原である。私は今、安全保障関連法廃止や改憲阻止を訴えている学生グループ「SEALDS」の訴えに共感を覚える。

現在の憲法下で平和が守られているのだから、改憲の必要はない。孫たちを戦争に出したくないなんて思う人はだれもいないはずだ。「集団的自衛権の行使」を巡る議論は以前ほど盛り上がりつつおらず、昔話のようになってしまった感がある。しかし私たちの知らないところで着々と何かが動いているようで不気味だ。日本が武器を輸出したり、戦争ができる国になったりしないか不安でならない。

現行憲法への姿勢、安保法制への取り組みなどを基準に、誰に入れるかを熟考しなければならぬ時期に来ていると痛感する。

朝日新聞 (6月15日号)

第100回世話人会

とき：2016年7月15日(金)13:30～

ところ：岩岡連絡所多目的ホール(小)

8月の催し、2016年度の会の活動、10周年記念行事について話し合います。

どなたでもご参加下さい。